

職員による自己評価

A環境面

バリアフリー化に関しては、現在の利用者様には適切であると思われる。

B児童への支援内容

業務改善を進める為の目標と振り返りについては、毎日のミーティングで振り返りが行われている。

公文学習による療育プログラムを実施し、自己肯定感を育んでいる。

C関係機関との連携

各部会に出席し、他の事業者の担当者と療育についての情報交換をしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

日ごろから、保護者からのご相談に親身になって対応し、必要に応じて必要な助言や支援をしている。

E非常対応

入所時に、アレルギーや持病について確認している。

保護者による評価

A環境面

環境面では、子供の活動等のスペースが十分確保されている。

教室も明るく清潔感がある。

B児童への支援内容

丁寧に基礎から指導しているので、保護者からは支援内容については満足していただいている。

C事業所からの情報発信

ホームページや地域の情報誌、また、ご利用者様には毎月「あさがお通信」で、情報を提供している。

D非常対応

目の前が小学校で指定避難所のため、避難しやすい。

事業所内での分析

【共通点】

事業としては、まず第一に子ども達が自己肯定感を育み、学校生活を楽しく遅れるように、基礎から無理なく学習を進め、学習効果を上げています。その結果、保護者の方からも喜ばれている。

【相違点】

長時間の療育は療育の質を下げる為、保護者様のご理解いただくこと。

分析・検討してみても…

事業所の強み

公文式研究会より、正式な指導施設として公文式学習による療育プログラムを実施している。

その結果、子ども達が集中力を増し、学力向上により自己肯定感を高め、落ち着いて学習に取り組めるようになっている。

毎回送迎の際に、保護者の方と情報交換をし、子供の療育に活かしている。

事業所の改善点

三年目になり、利用者数がいっぱいになり、安定した良質なサービスを提供するため、指導員の増強と、新しい指導員の研修や指導を徹底していく。

事業所の改善への取り組み

- ・新しい指導員には、公文の研修を受け、レポートを提出してもらう。
- ・指導員が多くなるので、日々変化する利用者の状況をタイムリーに共有することを徹底する。
- ・利用者の方が、個別支援計画の目標達成に向けて努力していけるように、事業所内の流れを視覚化して掲示する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート調査の結果、今後改善すべき点やご要望をいただき、今後の運営に活かしていきたいと思っております。